

こ う み ょ う

第 19 号

この如来は光明なり。 光明は智慧なり。

智慧はひかりのかたちなり。

親鸞聖人著作『一念多念文意』

コロナ禍の日々、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。なかなか収束に向かう気配が見られませんね。自粛生活にもうんざりして、ちよつとくらい出かけてもいいかな…なんて気のゆるみが出てきてしまいます。今しばらく、辛抱が必要のようです。そのような状況の中、私ごとではありますが、17年勤めた本山の職員を退職いたしました。23歳より一般企業に勤務し、大学院での学びを挟んで、本山の職員を嘱託まで含めれば19年間勤めてきて、このたび、はじめて専業の僧侶となりました（笑）。非常勤として宗門に席は置いていただいておりますが、基本は寺におります。ようやく、寺に身を据える毎日を過ごさせていただいております。コロナ禍の今…。

みなさん自粛され、お寺にお見えになる方も激減いたしました。そのような状況の中、ウィルスの感染に正直に恐れながらも、コミュニティを取り戻す具体的な策を考えております。

地域社会において、お寺はどのような場所として受け入れられるのか、恐れながらも模索し、試み続ける毎日であります。



涉成園（枳殻邸・東本願寺の飛び地境内）

第 19 号

2020 年 10 月 1 日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田 9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

ホームページ：

<http://koumyouji-fukagawa.or.jp/>

第6回終活セミナー 報告

8月8日(土)、終活セミナーを開催いたしました。前回と同様、Web会議アプリ「Zoom(ズーム)」を使い、ご自宅からでも参加できる形態にいたしました。今回は、お寺にも6名のご門徒さんが見えになり、スクリーンに映し出してご視聴いただきました。



私からは、「仏教の終活」をお話しいたしましたが、メインテーマは「遺贈寄付」です。講師は、第5回目と同じ星野哲さん。改めて皆さん、「遺贈寄付」って、ご存知ですか？

「遺贈寄付」とは、個人が亡くなったとき、遺言によって財産の全部または一部を、公益法人やNPO法人、学校などに贈る「遺贈」に加え、遺言がなくても相続人が故人の意思を受けて公益のために寄付すること、信託を使う方法を含めて「遺贈寄付」と呼びます。星野さんは、著書『遺贈寄付 最新のお金の活かし方』で、このように言われています。人生の最後に残った財産を使って、自身のいなくなった後の社会に「思い」を活かしてもらおう。お金を生かす。次世代の人たちのために役立てる。自身や家族が生きてきたことに感謝して、社会への「恩返し」をする。社会への人生最後のプレゼント。それが、遺贈寄付だ。

私が遺贈寄付について考えるとき、自分がどんなことを大切に生きてきたのか、そして自分がいない未来はどうあつて欲しいのかという思いを浮かび上がらせてくれます。

今回のテーマ「物語を紡ぎ、伝え、受けとる」は、「終活」の一つとして、「遺贈寄付」について考えることで、自分の人生の物語を紡ぎ、家族や他者に伝えること、そしてその思いを受け取ってくれる相手を見つけることを考えていただきたかったです。

終了後には参加者よりご意見をいただきましたので、その一部を紹介いたします。

- ・遺贈寄付という言葉が今回のセミナーで初めて知りました。
- ・終活セミナーは、死を当たり前のこととして受け止め、さらに生き方を見つめ直すのにとっても良い機会であり、お寺はそれにとっても相応しい場所だと思います。
- ・死生観については、常に話し合うべきテーマだと思っております。
- ・オンラインを初めて体験しましたが、集中して聴くことができました。



聞いてみたいテーマとしては、認知症、死後事務委任、成年後見制度、お墓の問題、グリーフケア、が多く寄せられました。今後の参考にさせていただきます。

真宗門徒入門講座（帰敬式）報告

8月22日（土）、帰敬式（おかみそり）を執り行い、6名の仏弟子が誕生いたしました。毎年、真宗門徒入門講座として1月より開催しておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大により3月から休止、4月に予定されていた帰敬式も延期となっております。このたび、決して安心してとは言えませんが、できる限り感染防止に配慮し、三蜜を避け、ようやく執り行うことができました。



帰敬式とは、法名をいただく儀式です。本来、法名は生きているうちにいただきます。それは、生きるための名のりだからです。決して、死者へのおくり名ではありません。この私が、仏の教えをよりどころに生きて往くという人生の態度決定になります。

しかし、生前に法名をいただくことが叶わなかった方には、仏弟子としてのちを終えていかれたという意味をもって、葬儀の際におつけないします。亡き方が遺された者に、どうか仏の教えに出遇って欲しいと願っておられることを確かめさせていただきます。死にゆくいのちを、仏の教えをよりどころに生きて往く、このことを確かめ合うために全4回の真宗門徒入門講座として開催しておりますが、来年は開催を見送ることといたしました。再来年に開催できることを願っております。

受式された方より感想をいただきましたのでご紹介いたします。

法名をいただくということが、こんなにも嬉しくありがたいと思ってもみないことでした。母親の法名の一字も入っており、名前を授かるということの不思議な縁も感じております。妙照という名のように、仏様の教えが遠くに照らされている、その場所を目指して、暗い道も手探りで歩いていかれそうな気がいたします。

釈尼妙照

仏弟子の名のり、法名をいただきましょう。

合葬墓「光明廟（仮称）」の建設を計画しています

光明寺の墓地は、千葉縣市川市にあります。JR市川駅から徒歩10分くらいのところです。共同墓地というような場所で、数ヶ寺のお寺さんや個人のお墓が集まっていて、その一角に光明寺にご縁を持たれた方々のお墓があり、光明寺歴代住職の墓もあります。

そこに、**2022年の夏頃**、合葬墓（他宗では永代供養墓とも言われます）を建設いたします。合葬墓は、ご遺骨を合葬（地下に掘った空間にご遺骨をそのまま一緒に収骨）することを基本といたしますが、年数を限って骨壺のままでもお預かりするものです。

お寺が続く限り大切にお預かりいたし、定期的に法要をお勤めいたします。

収骨の受付は光明寺にご縁を持たれるご門徒のみとし、他宗の方にはご遠慮いただきます。

光明寺にご縁の方はどなたでも収骨できますし、私、住職も一緒に入ります。

合葬墓という形は、浄土真宗の教えにかな適ったものです。還るところはひとつです。

これから随時ご報告いたしますが、詳しく知りたい方は、お寺にお問い合わせください。

い報告

毎年8月、東京教務所を通じて、宗派への護持金等の納金依頼書が届きます。それぞれのお寺で提出している門徒戸数に基づいて、ご依頼額が決められます。今年度の光明寺へのご依頼総額は、六十九万九千五百円でした。今年も無事に納金を済ませることができましたこと、皆さまに御礼申し上げます。本来であれば、皆さま方お一人お一人が、宗祖親鸞聖人と出遇う「本願寺」を護持するために納めいただいたご懇志を納金するところではございますが、光明寺にはまだそのような仕組みができておりません。従いまして、お寺の布施収入より、護持金をお納めしている状況です。来年には、「光明寺護持会」を発足させ、皆さま方に護持会費の納入をお願いいたし、その中より本山への納金を支出してまいりたいと考えておりますので、何卒ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



報恩講および仏具磨きについて

新型コロナウイルスの感染拡大に配慮いたし、今年度の報恩講は内勤めとし、ご参詣はご遠慮いただくことといたしました。また、仏具磨きについては、お寺に住む者で済ませます。

報恩講の模様は、11月8日に「YouTube」で配信いたします。法話は、住職です。

法話もお聞きいただきたいのですが、特に法要中の「表白（ひょうびやく）」をお聞きいただきたいと思えます。今の世にあつて、報恩講をお勤めする意義を表現いたします。

ぜひ、「YouTube」にて「参詣ください」。

修正会について

2021年1月1日11時より、「修正会」を勤める予定ですが、中止となる可能性があります。

ご参詣をお考えの方は、お寺にお問い合わせください。

光明寺同朋の会（法話の会）

親鸞聖人が書かれた「正信偈」には、どのような教えが記されているのでしょうか。少しずつですが、学んでまいります。

開催日：10月24日・11月28日・12月26日
土曜日の14時～16時まで

法話：光明寺住職

参加費：500円（テキスト代600円）

Zoom：会議ID: 953 5707 6868

パスワード：684089

※Zoomを利用することにより、今まで通りお寺で参加する場合と、自宅からインターネットを利用した参加が可能になりました。詳細はお問い合わせください。

写教の会

教えの言葉を書き写す「写教」の会です。

開催日：10月21日・11月18日・12月16日
水曜日の14時～17時まで開けていますので、出入り自由です。

参加費：無料

「正信偈」を書写しますので、筆ペン又は書道道具をご持参ください。